

日本海洋学会評議員会 2018年9月26日

2018年度日本海洋学会秋季評議員会議事録

日時：2018年9月26日（水）18:00～20:00

場所：東京海洋大学品川キャンパス（100A）

出席者：日比谷会長、神田副会長、植松監査、須賀監査、青木、秋友、石井、石坂、市川（洋）、伊藤、岩坂、植原、江淵、大島、岡、小川、小埜、小畑、郭、川合(美)、河宮、轡田、久保川、久保田、小松、根田、杉崎、武岡、東塚、中野、中村、西岡、羽角、花輪、広瀬、本多、松野、道田、三寺、山中、吉川、吉田各評議員（42名）

張環境科学賞選考委員長、梅沢海洋環境問題研究会会長、田村ブレイクスルー研究会会長、川合(義)幹事、北出幹事、安田幹事、山田幹事、安中幹事、毎日学術フォーラム(平坂)

委任状：磯辺、市川(香)、齊藤(誠)、武田、津田、原田、升本、万田、森本各評議員（9名）

開会に先立ち、北出集会担当幹事より、出席者42名、委任状9通で評議員会細則第3条の規定による評議員会の成立要件を満たしている旨報告があった。

1. 会長挨拶（日比谷会長）

評議員会開催に先立ち、秋季大会実行委員会へのお礼がなされた。

これに際し、吉田実行委員会委員長より、現時点で412名の参加者、口頭176件、ポスター64件の全240件の研究発表、賛助8件、機器展示21件、広告10件の申込があったこと、明日9月27日の午後に実行委員会主催の企業説明委員長ベントが開催される旨、挨拶があった。

会長挨拶に戻り、第11回海洋立国功労者表彰として、海洋学会から「海洋立国日本の推進に関する特別な功績」分野で古谷研会員と新野宏会員が、「海洋に関する顕著な功績」分野で大島慶一郎会員と白山義久会員が受賞したことが報告された。

学会長に就任して3年半が経過し、担当する最後の大会となったため、任期中の総括を絡めて挨拶が行われた。

就任時に掲げた目標について、「大会における新しい研究発表形式の導入」に関しては、2016年からセッション提案制を導入したこと、「他学会との連携強化」に関して

は、春季大会の JpGU への合流、共催シンポジウムの継続として海洋生物学研究会の立ち上げ、海洋学会と関連の深い学会へのエール記事を相互の学会誌に掲載することを開始（海洋学会は JOSNL に掲載）したこと、「海洋分野からの大型研究計画の創出」に関しては、日本学術会議に大型研究マスタープラン 2017 に「深海アルゴフロートの全球展開による気候・生態系変動予測の高精度化」を提出し、重点課題には採択されなかったが、2020 に改訂したものを再提出する予定であること、「財政の健全化」に関しては、JO の契約計画の見直しをし、黒字転換に成功したこと、「会員数の減少」に関しては、会費未払い者への対応を実施したこと、「若手支援」に関しては、財政面の問題から渡航費の支援などに問題があり、十分な支援ができていない状況であることを挙げ、概ね公約は達成できたと考えていることと、幹事会・会員・事務局のサポートへの感謝が伝えられた。

2. 報告事項

1) 会務報告

庶務（東塚幹事）

会員異動状況、シンポジウム等の開催・共催等について報告があった。

編集

① JO（石坂編集委員長）

発行状況、投稿・受理状況、インパクトファクター（1.746、過去最高）、編集速度、高頻度論文について報告があった。

② 海の研究（市川編集委員長）

編集委員の交代、出版事業、論文投稿状況、J-STAGE での論文公開について報告があった。

③ JOS ニュースレター（根田編集委員）

発行状況、発行準備状況、編集委員の退任、その他（バーター記事）について報告があった。

今後バーター記事をやり取りする学会の予定について質問があり、現在いくつかの学会に交渉予定であると回答された。

研究発表（山田幹事）

2018 年度の大会開催報告ならびに 2019 年度以降の大会の予定について報告があった。

賞選考

① 学会賞・岡田賞・宇田賞（大島委員長）

本日9月26日に第2回の選考委員会を実施したこと、学会員からの推薦と選考委員からの推薦を合わせた中から絞り込みを行い、学会賞4名、岡田賞4名、宇田賞3名の推薦者について調書を作成することとなったこと、10月27日に第3回の選考委員会を実施し、推薦候補を決定する予定であることが報告された。

② 日高論文賞、奨励論文賞（小畑委員長）

5月のメール審議において、追加の生物化学系選考委員として田所和明会員に委嘱を行ったことが報告された。本日9月26日に第2回の選考委員会を実施したこと、日高論文賞の候補者を絞り込んだこと、2018年度の奨励論文賞候補者が確定次第、第3回の選考委員会を開催予定であること、12月4日までに推薦書を提出する予定であることが報告された。

③ 環境科学賞（張委員長）

本日9月26日に第3回の選考委員会を実施したこと、11月末までに推薦書を提出予定であることが報告された。

選挙管理（安田幹事）

2018年度選挙（役員選挙、幹事選挙、各賞可否投票、賞選考委員半数改選）のスケジュールについて報告があった。

広報委員会（小笠委員長）

「海の出前授業」の活動状況、秋季大会中の広報活動（出前授業の情報交換会、ナイトセッション「海洋学を活かせる進路について」、海洋研究者の座談会「無意識のバイアスについて考える」）、学会パンフレットを更新した件について報告があった。

海洋環境委員会（小笠委員長）

2018年度青い海助成事業に応募があった1件について昨日9月25日に開催されたことが報告された。

海洋観測ガイドライン編集委員会（小笠委員長）

2018年7月に和文第4版を出版した。今後は和文の更新を行う予定であること、今年度末で編集委員を交代予定であること、会員外への周知の実施予定が報告された。

西南支部（松野支部長）

12月10日に、シンポジウム「日本海研究の現状と今後について」を水産大学校にて開催予定であること、シンポジウム翌日に連絡会を開催し、西南地区の大学の今年度の海洋調査実施状況と次年度の実施計画を報告予定であることが報告された。

海洋環境問題研究会（梅澤研究会会長）

秋季大会会期中9月29日にシンポジウム「東京湾の過去・現在・未来」を開催すること、同日9月29日に2018年度の研究会総会を開催し、沿岸環境調査マニュアル改訂版の出版や自然災害等の研究事例報告の収集について検討を行う予定であることが報告された。

沿岸海洋研究会（松野研究会会長）

8月に沿岸海洋研究56巻第1号を発行、昨日9月25日に沿岸海洋シンポジウムとして「沿岸海域の混合過程研究の最前線：縁辺海から河口域まで」を開催したこと、その中で速水論文賞の表彰を行ったこと、シンポジウム後に委員会を開催し、次回のシンポジウムについて議論し、「変わりゆく海、沿岸海域への温暖化の影響（仮題）」とし、富山で実施する2019年度海洋学会秋季大会会期中（2019年9月29日）に開催予定であることが報告された。

沿岸海洋研究のオンラインジャーナル化する提案に関して出た意見に関し、沿岸海洋研究の特集性（シンポジウム論文）維持のため、Extended abstractと質疑応答で構成されたシンポジウムのまとめと内容をサポートするような総説をシンポジウム終了後できるだけすぐに速報として会員のみでオンラインで提供すること、その後にシンポジウムとは無関係の総説と原著論文を入れて年1冊の冊子を発行すること、この総説に関しては、希望内容のアンケート実施や地方の研究集会からの積極的な吸い上げ（西南支部等）を検討していることが報告された。

海洋生物学研究会（杉崎研究会会長）

発足2年のお礼、電子メールによる運営会議の結果（会長と委員の再任（任期2年）、田所会員に副会長を委嘱）、海洋生物シンポジウム2019の開催予定（3月23日～24日午前、東京海洋大学品川キャンパス、楽水会館）について報告があった。

教育問題研究会（轡田研究会会長）

秋季大会中にセッションおよびポスターイベント、COSIA体験ワークショップ、第22回海のサイエンスカフェを開催予定であること、一家に一枚ポスターについてヒアリングを実施し審査中であること、研究会MLを無料サイトに移行、研究会Website修復、後期活動予定（サイエンスアゴラ2018）について報告があった。

ブレイクスルー研究会（田村研究会会長）

「クラウドファンディングによる次世代育成のための研修プログラム」の実施状況について速報がなされた。

2) 学界関連報告

学界動向（神田副会長）

21件の学界関連情報について報告があった。

日本地球惑星科学連合（川合幹事）

2018年度 JpGU 大会のアンケート結果を JOSNL に投稿済み、2019年度春季大会について（学会共催セッションについて、EJセッションの廃止、投稿規定、プライバシーポリシーの改訂）報告があった。公益社団法人として一口3000円の寄付を依頼していること、「理学・工学分野における科学・夢ロードマップ」の改訂について報告があった。

水産・海洋科学研究連絡協議会（伊藤幹事）

平成30年度第一回水産・海洋科学研究連絡協議会が2018年5月28日開催され、議長、副議長、幹事が選出されたこと、運営要領が改正されたこと、日本学術会議主催シンポジウム「2050年の水産資源を日本の食卓から考える」が11月10日に開催予定であること、白鳳丸の存続要望書を6月28日に協議会から文部科学省に提出したこと、これに関連した日本学術会議のシンポジウムを開催予定であることが報告された。

3. 審議事項

1) 会計の決算方法の変更について（安田会長）

3月に前納された翌年度の会費を翌年度の収入として処理するように決算方法を変更することが提案され、承認された。

2) 沿岸海洋研究会の会則の変更について（北出幹事）

沿岸海洋研究会の会則の変更（第4条、第8条、第27条、第28条、第29条、第36条）について提案され、一部訂正のうえ承認された。

3) 海洋環境問題研究会会則の変更について（小笠幹事）

海洋環境問題研究会会則の変更（第17条、第22条）について提案され、一部訂正のうえ承認された。

4. その他

- ・軍事研究に関する学会執行部への依頼（花輪会員）

2015年度より防衛省の防衛装備庁が「安全保障技術研究推進制度」を設け研究公募をしている。防衛装備庁が考える課題に対して研究を行う意思のある者が応募して研究費用をもらう制度であるが、各大学・各研究機関の対応は一様でない。

日本学術会議は、この問題に関して、2016年度に日本学術会議安全保障と学術に関する検討委員会を作り、昨年度3月24日に「軍事的安全保障研究に関する声明」を出した。この中で、各大学・学協会に対して、考え方をまとめてガイドラインを作ることを要請している。また、今年の2～3月に、各大学・研究機関180機関に対してアンケート調査を行い、9月22日に報告がなされた（約70%の大学が回答できないあるいは検討中との回答）。日本学術会議はさらに、学協会へのアンケートも検討中である。

日本海洋学会も含め、多くの学会が任意団体であることから、ガイドラインの作成が難しいのは理解できるが、海洋学の研究は軍事研究と結びついて発展してきたことを考えても、議論はすべきである。現在、一部有志で一昨年から大会の度にナイトセッションで議論をしてはいるが、若手研究者とシニアとの間の考え方のギャップを埋める上でも、学会主導で議論の場を設けていただきたい。

上記依頼を受け、会長より、「重い議題であるのですぐに結論は出せないが、幹事会中心に議論し、必要があれば会員宛 ML に流すなどして対応していきたい」との回答があった。

・2019年度秋季大会の大会実行委員長挨拶（張会員）

2019年度秋季大会の大会実行委員長である張会員より、準備状況の紹介と併せて挨拶があった。

以上